

すぐ役に立つものは  
すぐ役に立たなくなる  
—昨今の大学をとりまく状況への懸念—

日本学術会議 第三部会員

東京大学 大学院理学系研究科 物理学専攻

須藤 靖

日本学術会議 公開シンポジウム  
「人文・社会科学と大学のゆくえ」

2015年7月31日 14:00-17:00

# すぐ役に立つものは すぐ役に立たなくなる

- 最近、家のリフォームをし、オール電化を勧められましたが断りました。もしそうしたら子供達は「火」を見ることなく大人になるのだと考えると、怖くなりました。

(41歳、主婦)

- あなたの意見はまったくもって正しい。私は震災に仙台の家で遭遇したのだが、何が一番困ったかというと、その夜の暖がとれなかったことだ。便利なものは、必ず弱点がある。すぐ役に立つものは、すぐ役に立たなくなる。これは昔からの常識だから。

伊集院静『となりの芝生』(文藝春秋社)

# 小泉信三『読書論』(岩波新書、1950)

- 直ぐ役に立つ本は直ぐ役に立たなくなる本であるといへる。人を眼界廣き思想の山頂に登らしめ、精神を飛翔せしめ、人に思索と省察とを促して、人類の運命に影響を與へて來た古典といふものは、右にいふ卑近の意味では、寧ろ役に立たない本であらう。併しこの、直ぐには役に立たない本によつて、今日まで人間の精神は養はれ、人類の文化は進められて來たのである。

# 今と同じ文脈での昭和14年の応酬

- 先年私が慶応義塾長在任中、今日の同大学工学部が初めて藤原工業大学として創立せられ、私は一時その学長を兼任したことがある。
- 時の学部長は工学博士谷村豊太郎氏であったが、識見ある同氏は、よく世間の実業家方面から申し出される、すぐ役に立つ人間を造ってもらいたいという注文に対し、すぐ役に立つ人間はすぐ役に立たなくなる人間だ、と応酬して、同大学において基本的理論をしっかりと教え込む方針を確立した。

小泉信三『読書論』

# 世間の実業家方面→産業界→文科省

- 文科省が、86の国立大学に対し、文学部など人文社会科学系や教員養成系の学部・大学院について、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換を迫った
- 人文社会系は、研究結果が新産業の創出や医療技術の進歩などに結びつく理工系や医学系に比べて、短期では成果が見えにくい側面がある。卒業生が専攻分野と直接かかわりのない会社に就職するケースも少なくない
- 社内教育のゆとりが持てない企業が増える中、産業界には、仕事で役立つ実践力を大学で磨くべきだとの声が強まっている。 読売新聞 2015年6月17日社説

# “役に立たない”文学部 と理学部の意義

- 「文学部か、いいなあ」
- 「え、どうしてです」
- 「思い残すことがないでしょう」

私は《文学部しかない》と決めていて、それが**何のためとは思わなかった**。しかし、勉強が、それ自体のためというより、ステップであるということも当然あるわけだ。いや大学という存在の《機能》を考えたら、そちらの方が自然なのかもしれない。

北村薫『六の宮の姫君』(東京創元社)



# 最近の(国立)大学をとりまく懸念

- 意味不明なカタカナ語に翻弄されている
  - ガバナンス、コンプライアンス、イノベーション、グローバルイノベーション
- 長期的展望を欠いた効率化と短期的成果を優先した競争至上主義の奨励
  - 「財政悪化」という錦の御旗
  - 「教授会＝守旧派」を前提とした上意下達的手法
- 教養部の廃止とリベラルアーツの衰退
  - 専攻にかかわらず学生が身につけるべき教養を学んでもらうよりも、研究の即戦力として“役に立つ”教育だけに特化しようとする行動原理が働いていないか(特に“大”大学の理系教員)

# アメリカの大学の教育理念

## ■ プリンストン大学の学部教育 中間報告書

- すべての学生はプリンストン大学へ入学を申請するのであり、個別の学科やプログラムへ申請するのではない

## ■ The Feynman lectures on physics, volume III, Feynman's Epilogue

- I wanted most to give you some appreciation of the wonderful world and the physicist's way of looking at it, which, I believe, is a major part of the true culture of modern times. *(There are probably professors of other subjects who would object, but I believe that they are completely wrong.)*

須藤靖: asahi.com webronza 2013年11月5日、12月26日

プリンストン大学と教養教育



# 東大とプリンストン大の比較 (1)

日本の国立大学の教員は恵まれているのか？

	東京大学	プリンストン大学	比
学部生	14003人	5244人	2.7
大学院生	13768人	2666人	5.2
学生総数	27771人	7910人	3.5
教員数	(助教以上) 3856人	1175人	3.3
年間予算	2358億円	15.8億ドル	1.2
収入内訳	運営費交付金 811億	配当・投資益 7.5億	
	学生納付金 186億	学費 3.1億	
	科研費補助金 276億	研究補助金 2.7億	
	産学連携・寄付 556億	寄付 1.3億	
	病院収入 411億		

<http://www.princeton.edu/pub/profile/>  
 東京大学の概要 資料編(2014)

- プリンストン大学：特に、数学、天文学、物理学、経済学に強い (law schoolとmedical schoolはない)
- 国の財政危機とはいえ、一人当たり3倍の予算の違いは大きい

# 東大とプリンストン大の比較 (2)

## 国立大学の人文系学生は多いのか？

大学院博士	5890人	
人文	436	7.4%
教育	248	4.2%
経済	105	1.8%
工学	1066	18.1%
理学	658	11.2%
新領域創成	505	8.6%
農学・生命	435	7.4%
医学	961	16.3%
薬学	175	3.0%
総合文化	766	13.0%
数理科学	93	1.6%
情報理工	178	3.0%
学際情報	180	3.1%

Ph.D. candidates	2666	
Humanities	477	18%
Natural sciences	767	29%
Engineering, Applied sciences	576	21%
Social sciences	564	21%
Public and International affairs	204	8%
Architecture	78	3%

- 単純な比較は難しいが、東大は(理系中心だと思われる)プリンストン大に比べてですら圧倒的に理系が多い

# 東大とプリンストン大の比較 (3)

- 東大は規模が3倍大きい、年間予算はほぼ同じ
  - (学部学生＋大学院生)と教員の比はほぼ同じ
  - 年間予算／学生数：プリンストン大は 20万ドル＝2500万円
  - 東大(病院の予算を除いた場合)は700万円
- もはや人文系を削減すれば良いとかのレベルの話ではない
  - 東大基金：残高100億円で年間1%の運用益(1億円)
  - プリンストン大基金：残高200億ドルで年間10%超の運用益(20億ドル)
  - 東大が、トップレベルの外国人留学生・教員を増やすためには、同レベルの資金獲得が不可欠。アメリカ標準にするならば、教員の給料が2倍になってしまう！グローバル化を連呼している人はこれがもつ意味を本当に理解しているのか？
- 東大は世界レベルではないとのありがちな批判の(一部は)誤解
  - 国立大学の教員は、アメリカのメジャーな大学の教員に比べると、半分の給料と2倍以上の雑用に追われながら、健闘していることも広く理解してもらう努力をすべきでは？

# (参考) 東大の学部生と大学院修士学生

後期学部生	7360人	
法学部	956	13.0%
医学部	506	6.9%
工学部	2141	29.0%
文学部	864	11.7%
理学部	647	8.8%
農学部	648	8.8%
経済学部	772	10.5%
教養学部	433	5.9%
教育学部	209	2.8%
薬学部	184	2.5%

大学院修士	6575人	
人文	310	4.7%
教育	185	2.8%
法学政治学	31	0.5%
経済	165	2.5%
総合文化	565	8.6%
理学	724	11.0%
工学	2053	31.2%
農学生命科学	573	8.7%
医学	139	2.1%
薬学	200	3.0%
数理科学	99	1.5%
新領域創成	859	13.1%
情報理工	472	7.2%
学際情報	200	3.0%

# 職業訓練の場ではなく、リベラルアーツを身につけた人間を育てる大学への回帰

- 学問は綱渡りや皿廻しとは違う。芸を覚えるのは末の事である。人間が出来上がるのが目的である。大小の区別のつく、軽重の等差を知る、好悪の判然する、善悪の分界を呑み込んだ、賢愚、真偽、正邪の批判を謬まらざる大丈夫が出来上がるのが目的である。



夏目漱石  
『野分』

# 今のままで良いと言う気は毛頭ない

- 大学に対する長期的展望を欠いた不見識な圧力には断固反論すべきなのは事実だが、、
- uselessでもinvaluableなものの存在を伝える場としての大学の意義を理解してもらう努力も必要
  - 産業界からの批判に反論できるような真の教育を本当に行っているのか？
  - 人文・社会科学を学んだ学生が、社会に出た後、仮に直接役に立ってはいなくともそれらを学んで良かったと考えている割合は？
  - 理科系と文科系という無意味な分類にこだわるあまり、共通に備えているべき科学リテラシーと人文リテラシーの教育がおろそかになっていないか？
- 効率化などといった名目で、大学の真の役割を失なわせるような「改革」に走るのは、長期的にみて損である